

資料編

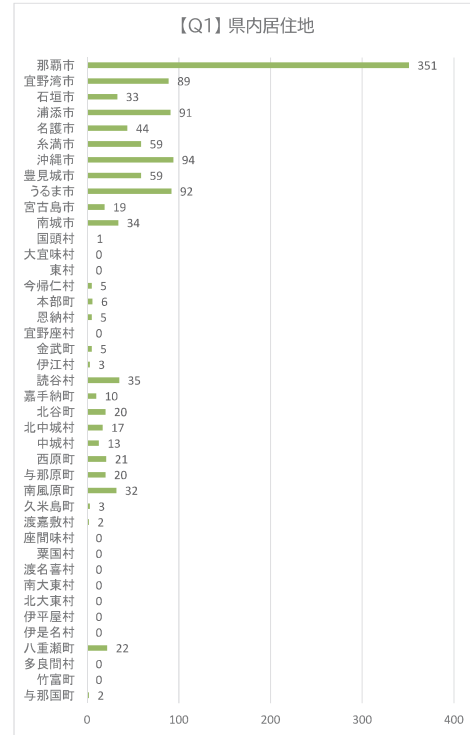
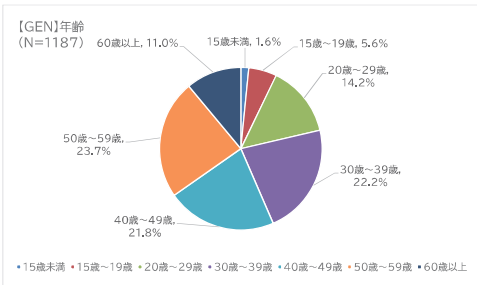
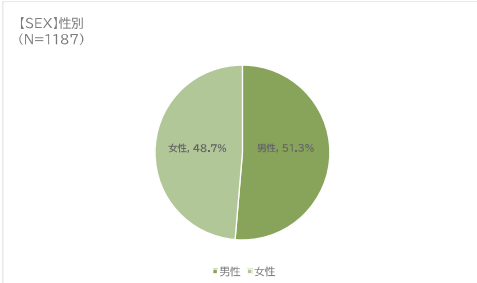
「地産地消」に関する県民意識調査の内容

概要

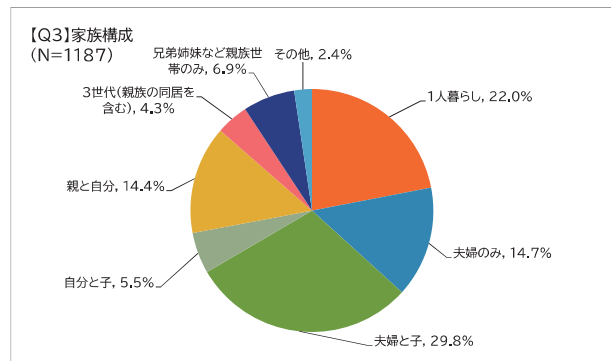
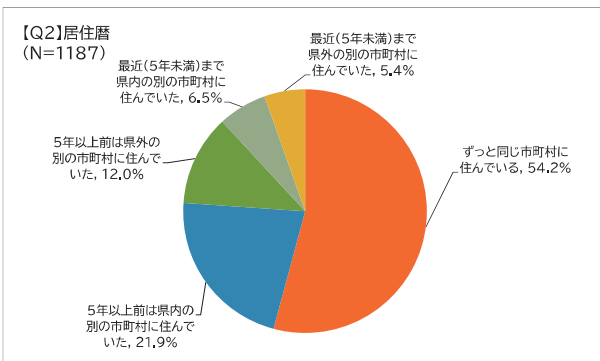
調査名	沖縄県 県民意識調査
調査目的	県民の「地産地消」に対する意識を調査するため、実施をする。
調査対象	沖縄県在住の沖縄県民を1,200人を対象とした。対象者抽出にあたっては、webリサーチ会社のモニターから行い、性別が同程度で抽出できるよう配慮した。
サンプル数	1,211件回答（うち、入力エラー等控除後のN数は1,167件）
調査手法	サーベロイド社によるwebアンケート
調査エリア	沖縄県
調査実施日	2023年9月15日～9月21日

調査属性

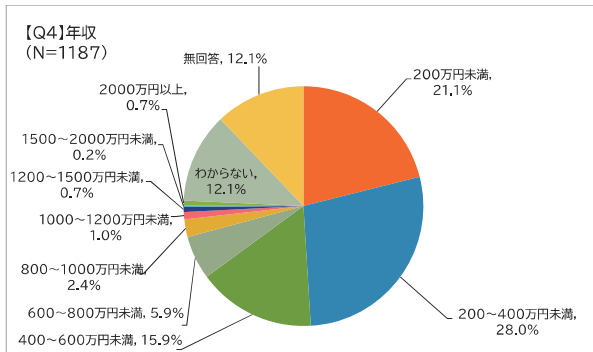
(1) 年齢及び性別、居住地



(2) 居住歴、家族構成



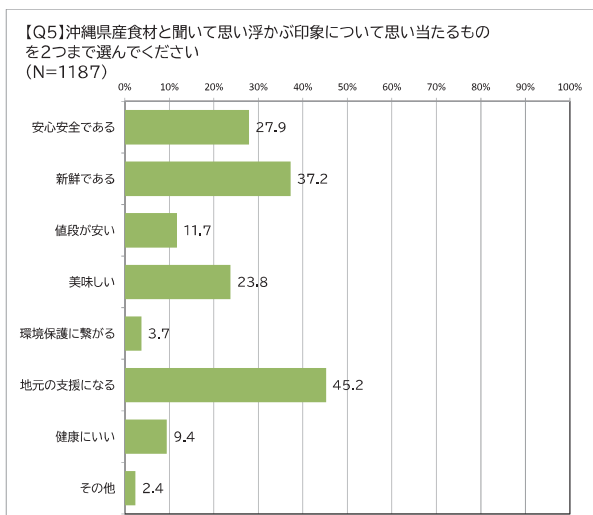
(3) 年収



調査結果

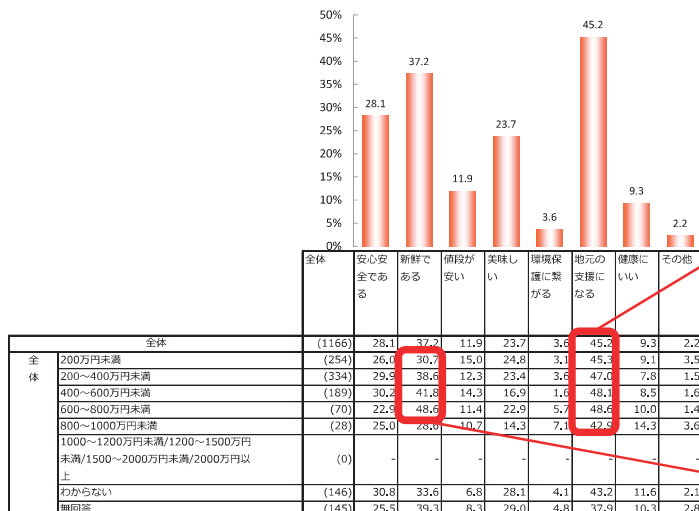
(1) 県産品の印象

- 県産品に対する印象について調査を行った。



- 本設問は新設の項目。
- 地元の支援になると答えた回答者が最も多く、次に新鮮である、安心安全であるが続いた。
- 次ページの通り、収入別のクロス分析を行ったが、収入を問わず同様の結果が見られた。
- 現時点で、沖縄県産食材は安心安全や新鮮というより、地元を支えていきたいという愛着心で支えられていると考察できる。

- 県産品に対する県民の印象について、年収とクロス分析を行った。

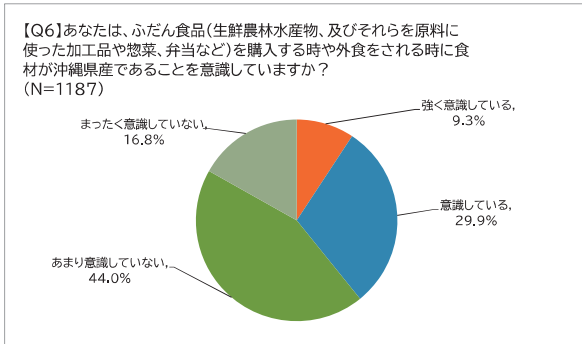


地元の支援となるという回答が各収入層で最も高い印象となった。
 県産食材に対する愛着度が高いと言える。

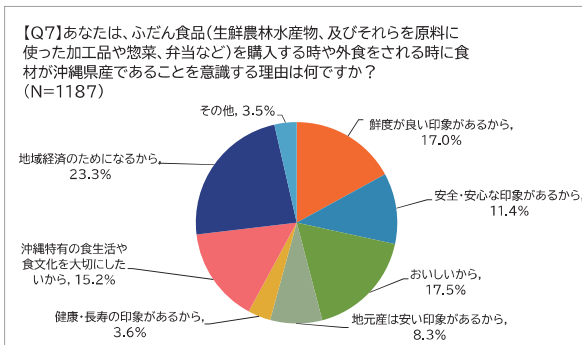
一定の水準まで収入が高くなるにつれ、食材の新鮮さを求める傾向が見られた。

(2) 県産品への意識

- 県民が中食や外食を利用する際に県産品を意識している割合の調査を行った。



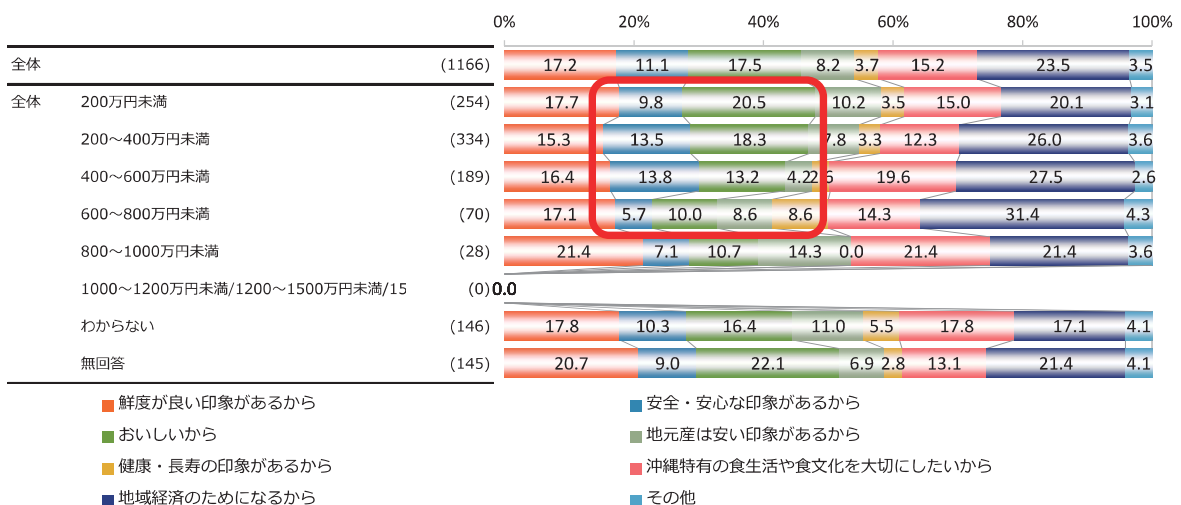
- 県民が沖縄県産であることを意識する理由について調査を行った。



あなたは、ふだん食品(生鮮農林水産物、及びそれらを原料に使った加工品や惣菜、弁当など)を購入する時や外食をされる時に食材が沖縄県産であることを意識する理由は何ですか？	今回		前回	
	N	%	N	%
鮮度が良い印象があるから	202	17.0	244	22.0
安全・安心な印象があるから	135	11.4	215	19.4
おいしいから	208	17.5	157	14.2
地元産は安い印象があるから	99	8.3	156	14.1
健康・長寿の印象があるから	43	3.6	60	5.4
沖縄特有の食生活や食文化を大切にしたいから	181	15.2	147	13.3
地域経済のためになるから	277	23.3	124	11.2
その他	42	3.5	5	0.5
全体	1187	100.0	1108	100.0

- 前回調査時は、Q6で「強く意識している」「意識している」の回答者に限定し複数回答としていた。
- 今回は、複数回答としていないが本設問でも鮮度や安全安心よりも地元経済への貢献を選択する回答者が多くを占めた。

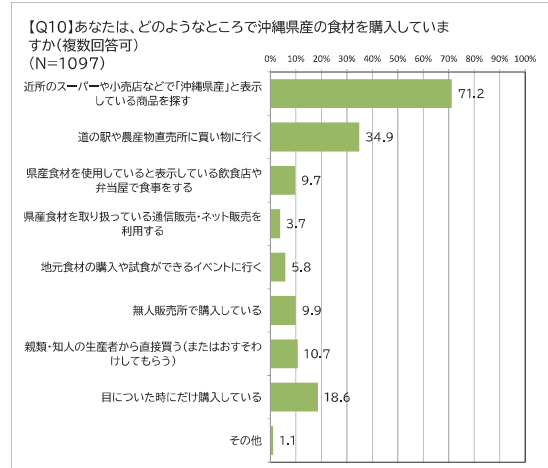
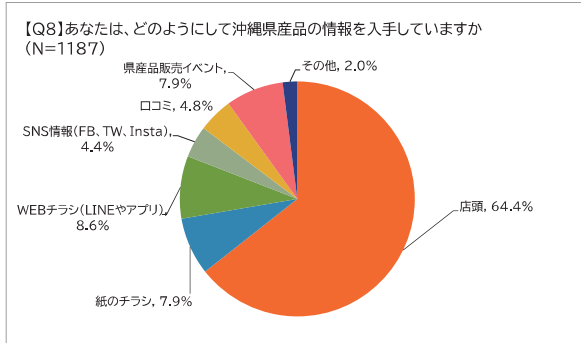
- 県産品について意識する理由と年収をクロス集計し、年収とどのような関係があるか調査を行った。



クロス分析で見ると、回答数が2位である「おいしいから」は、年収が高くなるにつれてその回答割合は減少する傾向がみられた。県産食材が「おいしい」との意識が低くなっているのは、収入が増加するにつれ他にも良い食材を入手できており、相対的に低くなっている可能性がある。

(3) 県産品への接点

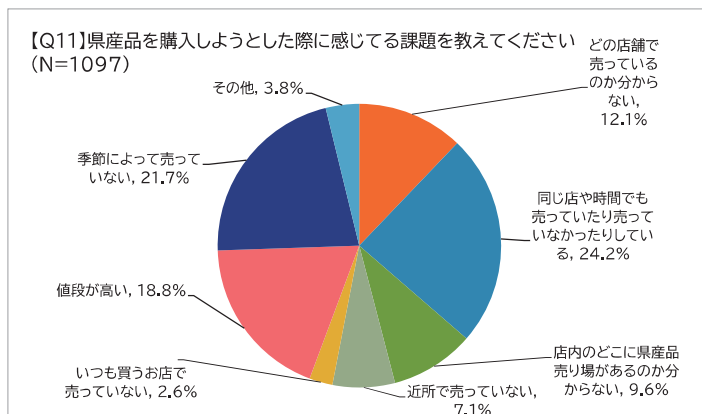
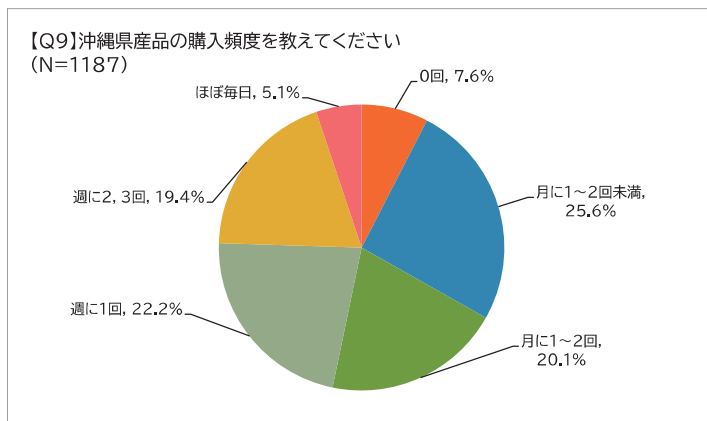
- 消費者である県民が、どのように県産品の情報を仕入れ、どこで購入しているかについて調査を行った。



- ほとんどの回答者は、県産食材の情報の入手、購入は近所のスーパーや小売店の店頭であることがわかった。
- 県産食材を使用していると表示している飲食店や弁当屋で食事をする県民の割合は9.7%であった。

(4) 県産品の購入頻度と購入時の課題

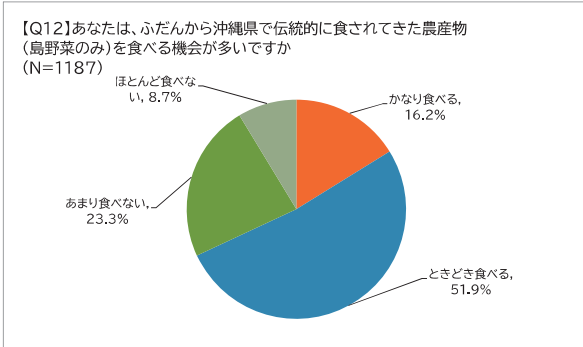
- 消費者である県民が、どのように県産品の情報を仕入れ、どこで購入しているかについて調査を行った。



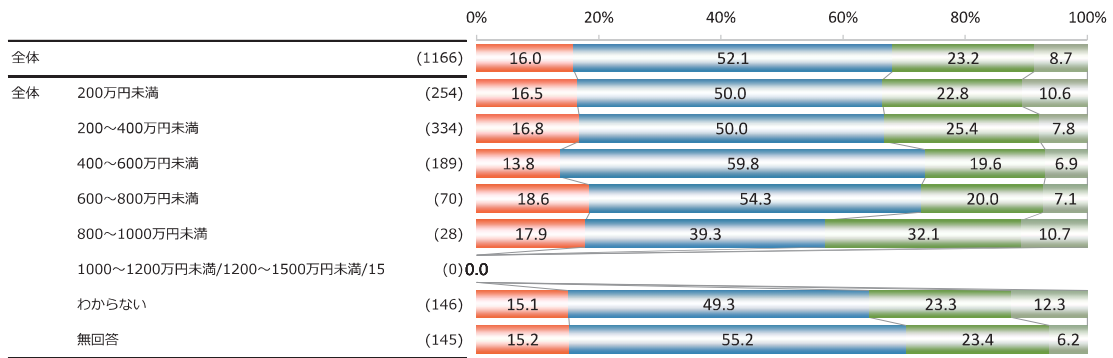
- 消費者からは供給の安定が課題であると感じている意見が多く見られた。

(5) 島野菜について

- 島野菜を食べる機会について調査を行った。

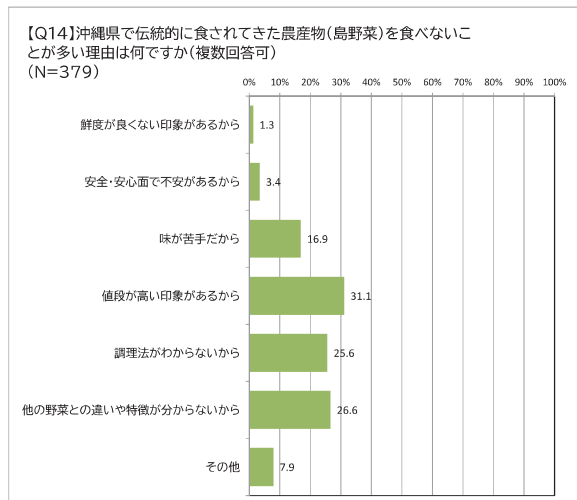
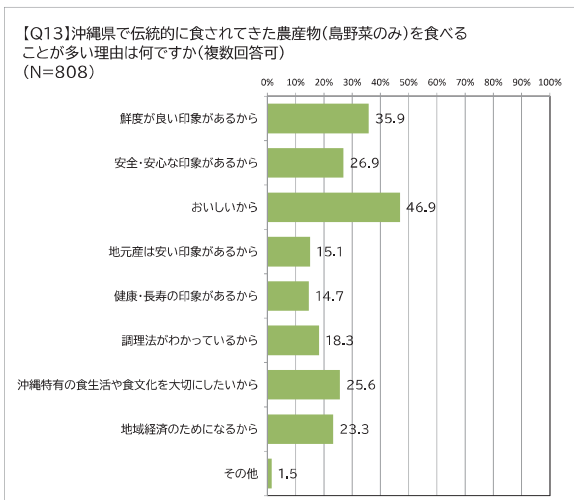


- 本設問では、島野菜を食べる機会についてアンケートしたが、クロス分析の結果を見ても収入別で特筆すべき特徴は見られず、全体的に食べると回答していた。



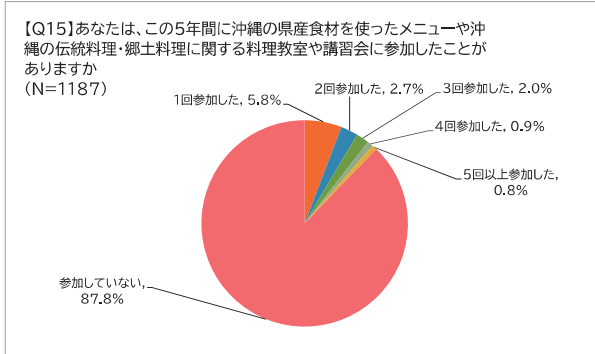
■ かなり食べる ■ とどき食べる ■ あまり食べない ■ ほとんど食べない

- 島野菜を食べると食べないことのそれぞれの理由について調査を行った。

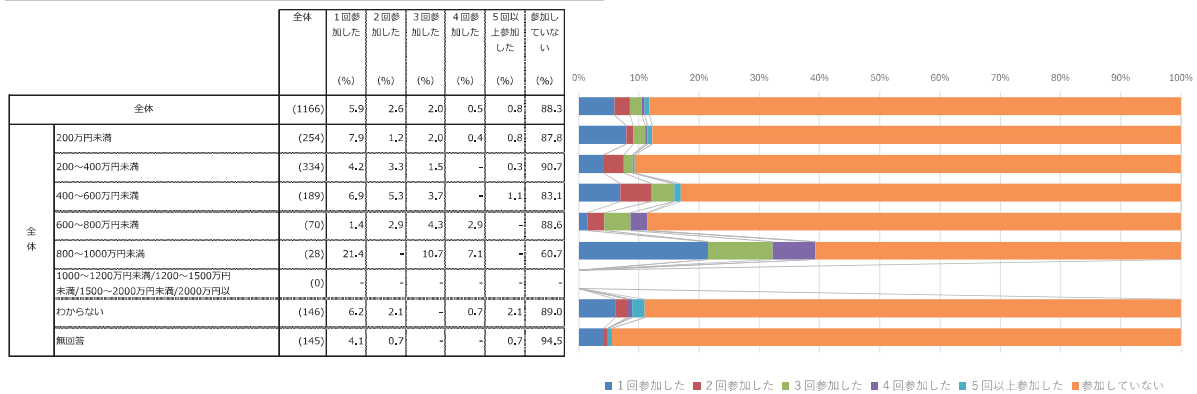


(6) 県民のアプローチについて

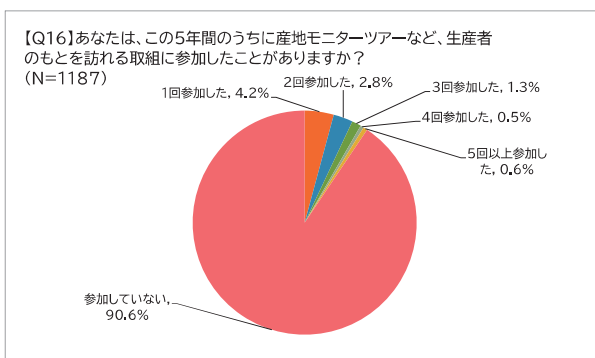
- 沖縄の県産食材を使ったメニューや沖縄の伝統料理・郷土料理に対する県民のアプローチについて調査を行った。



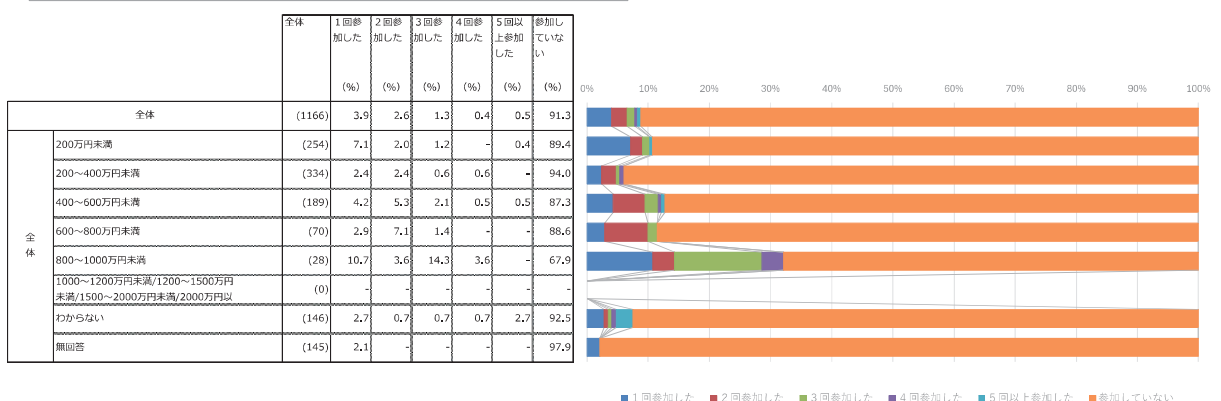
- 12.2%の回答者は、この5年間に沖縄の県産食材を使った料理教室や講習会に参加したことがあるとの回答を得た。



- 5年間のうちに産地モニターツアーなど、生産者のもとを訪れる取組に参加したことがあるか調査を行った。

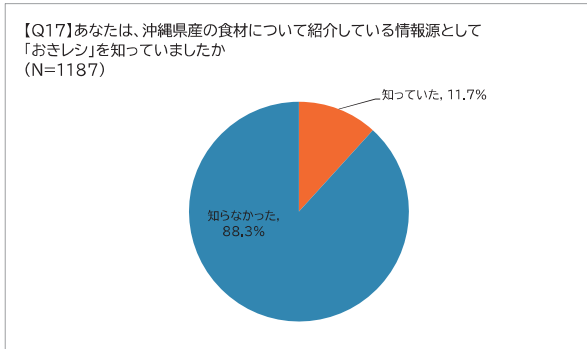


- 全体の9.4%の回答者は、この5年間に沖縄の産地モニターツアー等に参加したことがあるとの回答を得た。
- 参加経験者と収入に一定の相関関係が認められた。

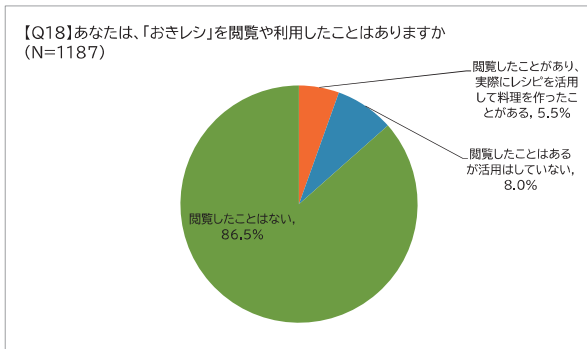


(7) 「おきレシ」について

- 「おきレシ」の認知度及びその利用について調査を行った。

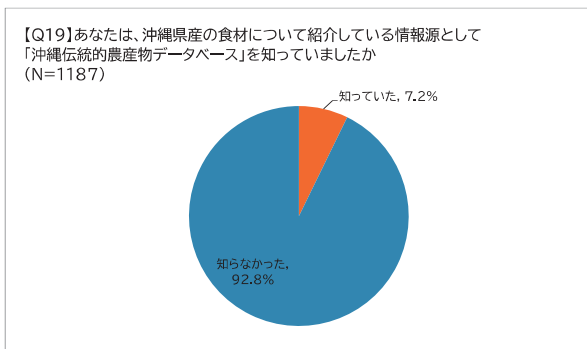


- 前回調査時は、「知っていた」が11.2%であり認知度の変化はなかった。

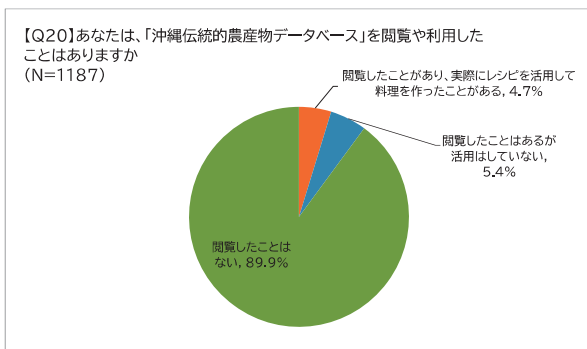


(8) 沖縄伝統的農産物データベースについて

- 沖縄伝統的農産物データベースの認知度及びその利用について調査を行った。

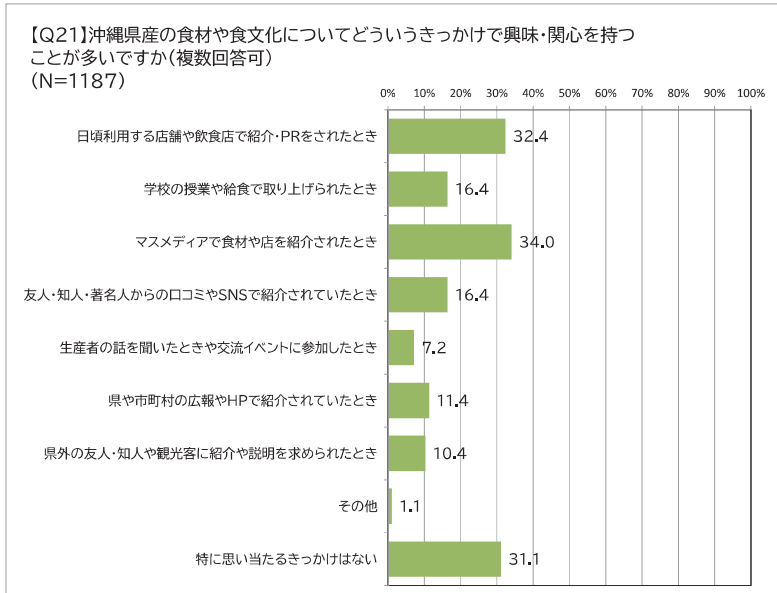


- 前回調査時は、「知っていた」が7.4%であり認知度の変化はなかった。



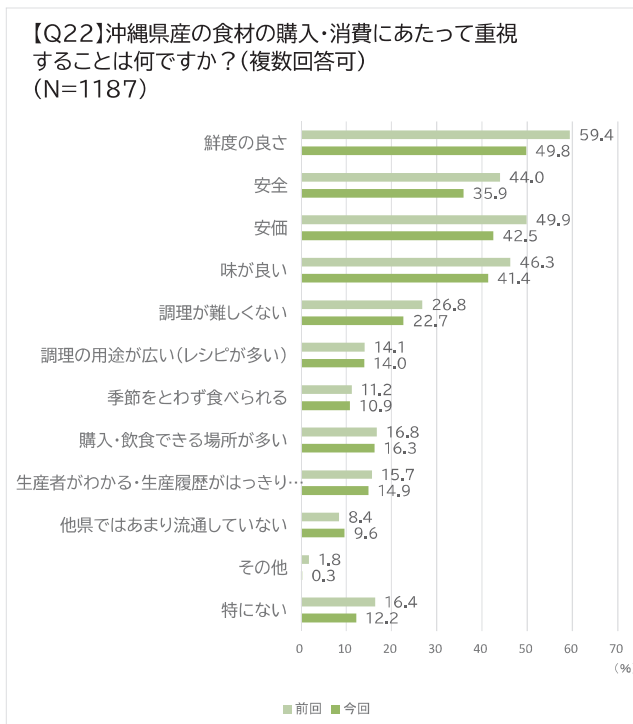
(9) 県民の県産食材や食文化への意識について

- 沖縄県産の食材や食文化への関心の動機について調査を行った。



- 県産食材や沖縄食文化に興味・関心を持つきっかけとして、「マスメディアでの紹介」「店舗や飲食店でのPR」の回答が多かった。
- 前回調査でも、「マスメディアでの紹介」が33.3%、「店舗や飲食店でのPR」が33.0%の回答者に選択されており、異なる選択肢が増えても機会としては同じとなった。

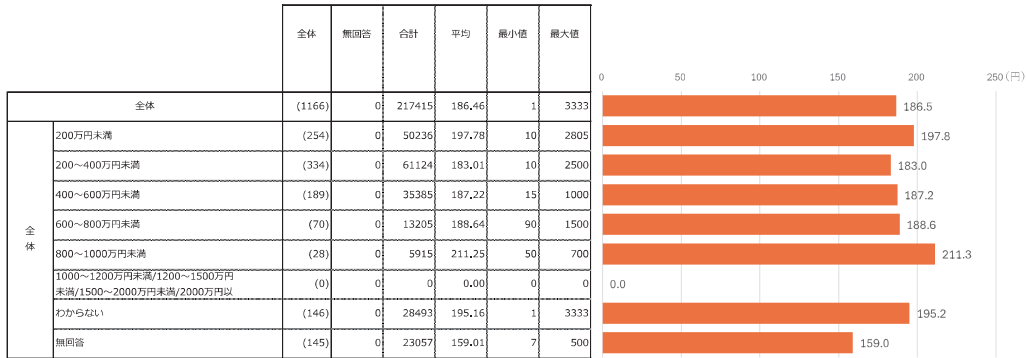
- 県民が考える県産食材を購入する理由について調査を行った。



- 本設問は、前回調査と同じ内容で行った。
- 前回調査と比べ各設問を回答する割合に変動はなく、「鮮度の良さ」との答えに続き、「安価」を求める回答が多く見られた。

(10) 県産食材の価格許容度について

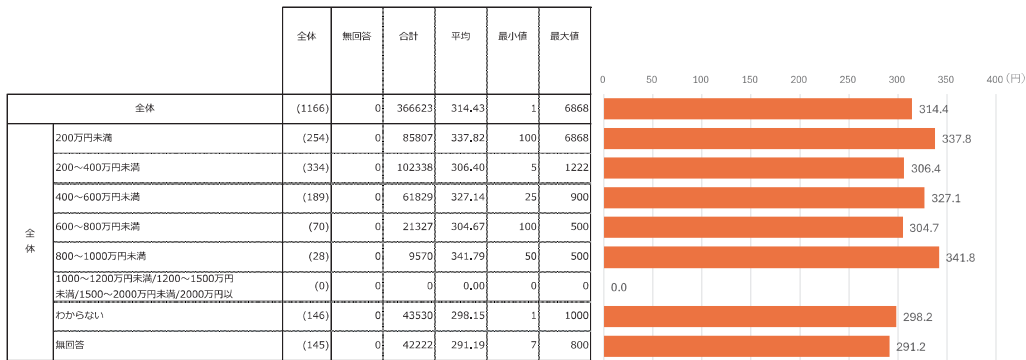
- 野菜について、価格が150円の県外産と比べて県内産の価格がどの程度であれば購入するか、その金額について調査を行った。



	全体	無回答	合計	平均	最小値	最大値	
全体	(1196)	0	223255	186.67	1	3333	
全体	男性	(613)	0	109460	178.56	1	1500
	女性	(583)	0	113795	195.19	1	3333

- 野菜の価格許容度は平均「186円」であり、県外産に36円以内であれば県内産を購入するという結果となった。
- 収入の増加につれて、価格許容度は上がることが分かった。
- 女性の価格許容度は男性よりも高く、県外産150円と比べて45円価格許容度があることがわかった。

- 果物について、価格が300円の県外産と比べて県内産の価格がどの程度であれば購入するか、その金額について調査を行った。



	全体	無回答	合計	平均	最小値	最大値	
全体	(1196)	0	377130	315.33	1	6868	
全体	男性	(613)	0	196634	320.77	1	6868
	女性	(583)	0	180496	309.60	1	2000

- 果物の価格許容度は平均「314円」であり、県外産に14円以内であれば県内産を購入するという結果となった。
- 収入の増加につれて、価格許容度は概ね上がることが認められた。
- 男女別のクロス分析においては大きな差異は認められなかった。
- 果物に関しては、県外産との価格差はなく、付加価値を高める必要がある。